

令 和 6 年

第12回教育委員会会議録

(開会 令和 6 年 11 月 15 日)

(閉会 令和 6 年 11 月 15 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和6年11月15日午前9時00分開会
会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）
梶田知靖君（教育委員）
長井知子君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）
小栗照代君（教育委員）

説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）
木村正男君（学校教育課長）
三宅愛彦君（学校教育課主任指導主事）
木村雄大君（教育総務課総務係長）
村井伴成君（教育研究所指導主事）

水野 修君（教育総務課長）
水野伸治君（学校給食センター所長）
石黒智子君（教育研究所主任指導主事）
古野 寿君（学校教育課指導主事）
只腰知子君（学校教育課学校支援係長）

出席委員会事務局職員

伊藤師啓君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

- 1 開 会
- 2 教育長報告
- 3 教育委員報告
- 4 議 事
 - ①議案第32号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可児市一般会計補正予算（第4号））（原案可決）
 - ②議案第33号 可児市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱について（原案可決）
 - ③議案第34号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について（原案可決）
 - ④議案第35号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）
 - ⑤議案第36号 財産の取得に関する意見について（原案可決）
- 5 各課所管事項
- 6 委員からの提案協議事項
- 7 その他
- 8 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。

これから令和 6 年第 12 回の教育委員会会議を開催します。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということでおよろしくお願ひをします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） 教育長報告でございます。

先月から今月にかけては大変行事等多くあったんですけれども、その中から 5 つほど簡単に報告させていただきたいと思います。

1 点目ですが、せんだっての公表会についてありがとうございました。お忙しいところ各校の動画を見ていただいて、いろいろな感想を持たれたかと思います。また後で意見交流したいと思っております。

私からは、両校とも、蘇南中学校も兼山小学校も学校経営の発表をしていただいたと思っています。「笑顔の“もと”」を育む取組の全容を端的に分かりやすく子供の姿で示していただいたなと思って、大変うれしく思っています。両校の実践、大変感動したものですから、私は見たらすぐに両校の校長先生にお礼の電話を差し上げたところでございます。また後で皆さんのが感想を聞かせてください。

それから 2 点目ですが、11月 3 日、国民文化祭の一環で可児市の取組が公開をされています。それに私も関わりましたので、報告させてください。新聞にも掲載されました。国民文化祭、可児市が 4 つの取組に手を挙げておるんですけれども、そのうちの一つに可児歌舞伎の公演がございます。その中で、市長はじめ市の代表者 5 人が「白浪五人男」という有名な演目を演じました。市長、議長、教育長、それから商工会会頭、a 1 a 館長、その 5 人が新聞記事の真ん中の写真に載りましたけれども、私が真ん中です。5 人のうちの真ん中が私なんですね、大変貴重な体験をさせていただきました。

この演目は盗賊が捕り手とやり合う、簡単に言うとそういうことなんですね。この 5 人、私、市長を含めた 5 人は盗賊なんですね。こういった歌舞伎になっているんですけども、その演目のせりふの中で、もともとのせりふどおりのところもあるし、あと捕り手に囮まれてやり合うところで一人一人が自分の自慢をするんですね。自分はこんな盗賊なんだということを。その盗賊の自慢のところを、それぞれの仕事のそれぞれの志を語ってほしいということで、そこだけは自分でせりふをつくったんです。そのせりふがこれです。「続いてあとに 捆けえしは 明智の莊に 移り住み 温かき友よき酒に ここ住みごこち 一番と 心と体 力満ち 我が生業に 精進す わらべ育み 四十年 出会いもあまた 導かれ 可児の皆々 共に立ち わらべ未来の 笑顔生む 「笑顔の“もと”」を 育まん その名も 可児市教育長 堀部 好彦」ということで、紹介させていただきました。これが 2 つ目です。

3 つ目ですが、大変これもありがたい話ですが、産業振興課の取組で、かにっこ 1 a b o バスツアーニュースというものがございます。キャリア教育の観点、ふるさと教育の観点から大変すばらしい取組とありがたく思っていますが、中身は、可児市在住の小・中

学生及びその保護者から参加者を募り、市内企業をバスで回るツアーを開催してくださっています。工場や製造現場の見学と各協力企業の特徴を感じられるワークショップを開催して、子供たちがその企業でどんなことをやっているのか、会社でどんなことをやっているかということを親子で、子供と親さんで体験をするという取組です。これが8月23日に行われました。参加者が57人で、いろいろな宣伝をしながら募ったのだけれども、大好評だったようです。大人気、大好評。

アンケートの自由記述欄をちょっと紹介させてもらいます。これは子供の感想かな。「少ない人数でも頑張ってください。僕はここで働いてみたいと思いました」という感想。

あと、親さんの感想を2つ紹介します。

1人目の親さん、「商品に興味が湧いたことが一番でしたが、子供が働く側として興味を持ちました。ありがとうございました」、我が子が働くということをイメージされたということかと思います。

もう一人の親さん、「ふだん見えない世界を楽しく学ぶことができました。従業員の方の愛社精神もところどころ強く感じました。子供が将来仕事を考えたとき、貴社のような会社に入ってほしいと感じました」ということで、大変学びのある取組だったのかなということで感謝したいと思っています。

今後もこのツアーは開催をされるということで、11月30日に行われる第二弾のチラシも見せていただきました。可児市教育大綱で、企業と連携をして子供たちを育んでいくこということが方針であるわけですけれども、まさにそれに合致した取組ということで、今後もさらに続けて成果を出していただけるとありがたいと思いました。これが3点目です。

4点目ですが、10月30日に可茂地区社会教育振興大会が行われました。可茂地区の市町村の社会教育に携わる方々が集まって、研修をするというのが毎年行われているわけですが、そこで今回テーマになったのは「地域と学校の連携・協働」です。副題として「子供を核とした地域づくり」ということで、子供・若者を取り巻く環境はどのように変化しているのかとか、なぜ子供・若者を育むために地域の力が必要なのかとか、子供を核とした地域づくりのために私たちにできることは何なのかというようなテーマで、各市町村、社会教育等に携わる方々が集まってお話を聞いて、その上で自分たちの考えを出し合うような取組が行われて、私も参加させていただきました。

ここで可児市の参加者なんですが、一番多いです。非常に関心が高いなと思います。地区センター長、校長、社会教育委員という方々が集まってくださって、熱心に協議をしておられる姿を見て、これについてもありがたいと思っております。コミュニティ・スクールにつながるというか、まさにコミュニティ・スクール、地域学校協働活動そのものだということを思っているわけですが、こういった研修に可児市の方々がたくさん参加をしてくださっていることは、コミュニティ・スクール推進の上でも大変ありがたいことです。これが4点目です。

最後5点目、11月7日、可児学校保健会の総会に参加をさせていただきました。私は、この保健会の顧問の立場なんですけれども、当日は市長の代理ということで話をさせていただきました。その話の中身を簡単に紹介させていただきます。まずもってこの総会

で功労者の表彰ということで、可児学校保健会の推進に御努力いただいた方に表彰式があつたわけですが、ここで小栗委員が表彰を受けられたということで、ここで改めて紹介をさせていただきます。本当にお疲れさまです。ありがとうございました。今後ともまたよろしくお願ひをします。

そして、こんなことにも触れました。令和5年度の児童・生徒の問題行動、不登校等、生徒指導上の諸課題に関する調査結果というのが報道されています。不登校の児童・生徒数は、御承知のとおりどんどん増えているわけですが、前回の調査が30万人だったのが、今回の調査結果が34万人、4万人プラスというお話をさせていただいて、これは全国的な傾向であり、可児市でも御嵩町でも増加の一途をたどっている傾向は変わりません。それぞれ教育委員会と学校が一体となった取組を続けて、不登校対策についてやっているところですが、この調査結果を踏まえた取組を、今後私たちも可児保健会としてもやっていく必要があるだろうという話をさせていただきました。

その根拠として、この調査結果で不登校児童・生徒について把握した事実が公開されています。その中で3番目に多かったのが、生活リズムの不調に関する相談が本人または保護者からあったということです。つまり、不登校の未然防止の観点から、生活リズムを崩さないということも大変必要なんじゃないかと、可児学校保健会がやるべきことが、やっていることが不登校対策にもつながるんじゃないかと感じ、お話をさせていただきました。

以上5点、よろしくお願ひをします。

教育委員報告

- 教育長（堀部好彦君） それでは、教育委員報告に入ります。
- 教育委員（伊藤小百合君） おはようございます。

先月の会議の午後からなんですかれども、教育福祉委員会との懇談会に出席しました。議員の方々、本当によく勉強されていまして、自分も勉強不足だというのもあるんですけれども、いろいろなことを知ってみえるので、自分の考えていることが至らないのが分かって、そこをさらに深めてくれ、大変勉強になるなと感じました。

話は変わりまして、おとといの笑顔の学校公表会で兼山小学校のビデオを見せていただきました。その中で、目を見て挨拶する指導についてお話をありました。徐々に子供たちも自分たちで意識をするようになってきているということで、私もすごく個人的には挨拶を非常に大切なものだと思っていますので、子供たちの様子の変化をうれしく感じています。また、先生たちが自ら地域のことを兼山学という形で学んで子供と共有できるよう努めているところも、子供の目線に立っていることで、少しでも子供たちの身近な存在になって子供たちに接していただいているということも感じました。

「笑顔の“もど”」についても自分たちが振り返り、多様な考えに触れる機会を多く設けていただいている場面がありまして、子供たちにより経験を自分のものとして、生きていくための原動力を育んでいただいていることにすごく感謝したいなと思って、先生たちに、子供たちの成長に御尽力をいただけるよう、もっと頑張っていただければなというのを感じました。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございました。

兼山小学校の取組のすばらしさを今お話をしていただいたのですが、全く同感で、特に今伊藤委員が言われた、生きていくための原動力と言われましたよね。これ、まさに「笑顔の“もと”」なんですよ。将来幸せに生きていくための原動力なんだろうなって、それを兼山小学校は、好きなものをつくっていくことで、その原動力が生まれるんじやないかと。

この「好き」という言葉は、子供たちもよく使うし、非常に当たり前にあるというか、よく聞く言葉なんだけれども、あの校長が言う「好き」は深いなあと思います。ここに渡邊校長の教育観が表れていると思っています。一人一人に好きなものをつくっていくために何が必要なのかって、いろいろな体験をさせる、いろいろな学びをさせる中で好きなものができたとすると、その過程で身につけたものってあると思うんです。努力を続けるとか、仲間との関わりを大切にするとか、なぜ好きになれたんだろうという問いを、校長は一人一人の子供に問いかけていますね。なぜあなたはそれを好きになったのと言うと、その好きになる過程に子供たちは目を向ける。そうすると、そこで自分が頑張ったことを自覚する。それが「笑顔の“もと”」なんだろうなという校長の教育観です。それを見事にまとめられた動画だったと思いました。「生きていくための原動力」って、いい言葉ですね。ありがとうございました。

○ 教育委員（梶田知靖君） おはようございます。

10月29日に、岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会へ出席させていただきました。

今回は高山市での開催でしたけれども、昼からは分科会に参加させていただきまして、私が参加したのは部活動に関する内容だったんですけども、最初に下呂市のお話を聞かせていただきいて、その後、各グループごとに分かれています市町村のお話を聞かせていただきました。やっぱりなかなか地域移行というのが難しいところだなというのを随分感じたんですけども、可児市はUNICという組織があって、そちらに土・日などの部活動はうまく引き継いでいっているので、可児市は一番進んでいるのかなということを感じました。

それから、11月12日に可児市PTA連合会の教育懇談会へ出席させていただきまして、こちらは今年で座談会という形で開催するのが3年目ということなんですが、今年のテーマは「コミュニティ・スクールについて」というお話をしました。その中で、冒頭、各小・中学校のPTA会長さんにお話を聞かせていただいたときに、コミュニティ・スクールについてあまりよく分かっていないという、おおよそのことは分かっているんですけども、核心についてはあまりよく分かっていないらしいやらないという回答が多かったので、私自身も教育委員として少し力不足なのかなということを感じました。保護者の方にもっと発信していく必要があるのかなということを思いました。

それから、先日笑顔の学校公表会に出席させていただきまして、石黒主任指導主事はじめありがとうございました。今年は蘇南中学校の動画を拝見させていただいたんですが、本当に蘇南中学校の笑顔の発表というよりか、プロモーションビデオのようにとてもすばらしい仕上がりでして、冒頭、佐野校長先生のメッセージがあったんですけど、その中の「力をつける」という言葉がとても印象に残りました。この「力をつける」という言葉は、とても深い意味を持った言葉だなと思いました、そのときにもお話をさせてもらったんですが、蘇南中学校の校区の小学校でこの動画を流したりとかしたら不登

校対策になるのではないか、蘇南中学校ってこんなに楽しいところじゃないかということを子供たち思うんじゃないかなというふうに思いました。以上になります。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございました。

まず部活動改革について、他市の実践も学んでいただいてありがとうございます。その間で可児市が進んでいると感じておられること、本当にそのとおりだと私も思っています。文化スポーツ課の方々の御努力に、改めて感謝申し上げたいと思っております。

今後、課題もいろいろあるんですけども、教育委員会としてやれることも、相談を受ければ積極的に学校と関わり合いながら解決に向けて動いていくことが大切なと思っています。

それから、コミュニティ・スクールについて、可児市PTA連合会の懇談会に参加していただきまして、これについてもありがとうございました。言われるとおり、まだ始まったばかりということで、保護者の方々のコミュニティ・スクールに対する御理解もまだまだだなという感は私も受けました。今、梶田委員言われるように、教育委員として働きかけをしていきたいとおっしゃってくださったこと、これも大変ありがとうございます。コミュスクについて様々なところで勉強されているかと思いますので、学校の先生方及び保護者の方々、地域の方々とコミュスクについてお話をされがあれば、ぜひ積極的に啓発をしていただけるとありがちなあというふうに思っております。

最後、蘇南中学校のDVD、ビデオについての活用、なるほどなと思っております。公表会だけで使うのはもったいない動画ですよね。兼山小学校のことも含めて。学校紹介に使えるなということは私も以前から思っておったんですけども、加えて、小学校の子供たちに蘇南中学校のビデオを紹介するというようなことを提案してもらった、梶田委員がね。これは、子供たちが中学校への期待をさらに高めていくこと、そして安心して入学する、安心感を育むというような意味でもすごく意味のあることなんじゃないかなと私も思いましたので、これはぜひやっていけるといいなと思いました。ありがとうございました。

○ 教育委員（小栗照代君） おはようございます。

10月25日、前回の教育委員会会議の後ですけれども、皆さんと同じように教育福祉委員会の方々との懇談に出席させていただきました。まず一人一人テーマを持ってお話をということでだったので、私は担当校の兼山小学校の小規模特認校のお話とか、それから幼保小連携のお話をさせていただいて、その後、全体で不登校についての意見交換をさせていただきました。私たちも市議の皆さん方の御意見をお伺いして、大変勉強になるところもあったなと思いますので、今後の不登校対策に生かしていきたいなと思います。

先ほど教育長からお話がありました11月7日、可児学校保健会の研究総会にお招きいただき、表彰を受けさせていただきました。大変ありがたいと思います。

続いて11月12日ですが、可児市PTA連合会との教育懇談会のほうに出席させていただきました。先ほど梶田委員もおっしゃったんですけども、コミュニティ・スクールについてということで、各PTA会長から思いとか御意見のほうをお聞かせいただいたんですけども、やはり学校によって認識とか取組の度合いにまだ、もちろん始まつたばかりなんですけど、差があるというのは感じまして、その後に教育長のほうから丁寧

な説明をしていただいたので、御参加の方々には大変御理解いただけたのかなと思います。

その後に、教育長から実際にこの目の前で披露していただいて、私自身もすごく勉強になりましたし、それぞれのPTA会長さん方も実際に御覧になって、ああ、こういうものなんだということで多分すごく理解いただけたと思いますので、今後各校で子供をこういうふうに育てていきたいんだという思いをぜひ考えを深めていただいて、御展開いただけたらいいと思いますし、私自身も微力ですが、お力になれていたらいいなと思いました。

続いて11月13日、可児市笑顔の公表会、兼山小学校を拝見させていただきました。まず、校長先生の兼山の子供たちをこういう子に育てたいという強い意志というか、決意というものを本当にひしひしと感じられまして、先生がそういった思いでいらっしゃるからこそ、保護者の方や地域の方々としっかりと一丸となって組んでいただいて、子供たちの未来の笑顔のために進めていただいているんだということを本当にひしひしと随所に感じることができました。

卒業間近、たしか6年生の子だったと思いますが、その子の言葉を校長先生が紹介されていたんですけど、「諦めないで続けると楽しくなる」という言葉を紹介されていて、僅か12歳でそういったことが言えるような体験を小学校でさせてあげられているというその教育というのがすごいなと感じました。

校長先生のお話の後の動画なんですけれども、兼山小学校の紹介のような動画ですけれども、すごく特徴が分かりやすく表現されていたので、これを小規模特認校のPR動画に使って、今も使っていらっしゃるのかどうか分からぬんですけども、使っていただくのがすごくいいんじゃないかなと思って拝見しました。

兼山は本当に、可児市の中でも例えば古いお城があったりとか、歴史があったりとか、地域の方々の御協力であったりということもありますし、地域性もありますし、また少人数ということもありますけれども、そういった特性を最大限に生かして、個人個人に寄り添った兼山小学校独自の教育テーマがしっかりと確立されて、それが実際に生かされているとすごく感じました。

自分の担当校ということもあるかもしれませんけれども、兼山小学校の子供たち、それから小規模特認校制度でほかの地域から来ている子供たちが、この兼山小学校で学べるというのは本当に幸せなことなんだというのを、動画を拝見させていただいて感じまして、歴史のあるすばらしい兼山の地で、すばらしい「笑顔の“もと”」を培ってほしいと思いますけれども、それができる体制を校長先生以下、皆さん方でつくっていただいているということをひしひしと感じました。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

まず、市PTA連合会の懇談会についてのお話でしたが、コミュニティ・スクールの今までと何が違うのというようなことも、テーマに、話題になっていたんだけれど、子供を育てる当事者として、保護者、地域の方々がより主体的に関わっていくところが一番大切なんじゃないでしょうかという話をさせてもらいました。そこで、そのときに小栗委員が委員としての発言の中で、大変ありがたいなと思ったのは、御自身が、小栗委員がPTA会長をやっておられるときに、こんなことをやりませんかということ

を校長にプレゼンしたというふうにお話をされましたよね。あれが、まさに私が申し上げたかった主体的に子供を育てていくという当事者としての動きなんじゃないかと思って、僕としてはありがたかったですし、それから事務局の藤井さんが、あの小栗委員の発言はすごくびっくりしたという。皆さんに響いたんじゃないかという、なかなかできることじやないかもしないんだけど、そういうことが大切なんだなあということを、響いたんじゃないかということを言っておられました。ありがとうございます。

それから、兼山小学校の校長の熱意だとかについてお話があつたんですけども、私は各校の校長先生に、あなたが目指す「笑顔の“もと”」は何ですかということを常々迫っているわけですよ。教育観に根差した、願う子供の姿を示してくださいということを迫っているんですね。それに校長先生方は見事に応えてくださっているということなんだろうと思っています。

あとP R動画の提案についても、まさにさっき梶田委員の御提案もなるほどなと思ったんですけども、宣伝になりますよね、小規模特認校のね。校長にも伝えておきたいと思いました。ありがとうございました。

○ 教育委員（長井知子君） おはようございます。よろしくお願ひします。

私は岐阜県市町村教育委員会連合会の研究総会で高山のほうに行ってきました。分科会では不登校のテーマに参加したんですけども、その中で、高山市が可児市と同じように不登校の子たちが行ける居場所をつくっているんですけども、医療関係、個人の病院と連携を組んでされているというのを聞いて、すごいなあ、なるほどと思いました。

あとは、市PTA連合会の教育懇談会に参加しました。その中で、各PTA会長が本音で話をしてくださって、なかなかああいう場で本音で話せるということは難しいと思うので、すばらしいなと思ったと同時に、いいお話を聞かせていただいたなと思いました。まだコミュニティ・スクールは始まったばかりで、みんなが手探り状態なのでなかなか難しいんですけども、どんなことも先に行けば行くほど情報というのが間違って伝わったりだとか、全然伝わっていないなかったりということがあるので、やはり保護者さんレベルまで行くと、当然なんですけれども、まだまだ伝わっていないところがあったので、そういうところはやり過ぎかと思うぐらいにやっぱりアピールをしていかないといけないんだろうなと思いました。

先日、また別件で笑顔の学校の公表会に行ってきました。私は蘇南中学校を見せていただきなんですが、学校訪問で佐野校長先生とお話しさせていただいたときに、とても楽しいです、本当に楽しいですと笑顔でおっしゃっていたのが印象的だったんですけども、動画を見て、ああ、先生の思いがいっぱい詰まった学校運営をされているんだということが伝わってきました。

その中で印象的だったのが、生徒が生徒にインタビューをするシーンが何度もあったんです。子供たちが、いろいろな人たちがいて楽しいですと言っていたんですけども、子供の頃から世の中いろいろな考えの人がいて、いろいろな人がいるということが分かっているというのは、生きていく上ですごく自分が楽になると思うので、本当に大きな学校ですけれども、そういった点もいい点だと思いました。

あと、校長先生が学校運営されている中で、子供をこんなふうに育てたいんだというのがすごく動画から伝わってきて、どこの学校でもされていると思うんですけども、

子供たちにどんな自分になりたいか、それをちゃんと振り返る時間も持たせている、そういうのを見て、蘇南中学校の子供たちはすごく幸せだなと思いました。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございました。

私も公表会当日は蘇南中学校の動画を見せていただいたんだけれども、長井委員が言われていることも大変よく分かります。1,000人を超える学校の子たちの何人かのインタビューが動画の前半に流れたんですけれども、学校を誇りに思っているんですよね。その誇りの中身に、長井委員が言わされたように、いろいろな人たちがいるということを言っていたよね、異口同音にね。いろいろな仲間がいる、そういう中で学んでいることを誇りに思っているという、すばらしいコメントを子供たちがしていたなと思って、同時にというか、それでその辺りを言われたんだろうと思うんだけれども、教育総務課の水野課長と一緒に見せてもらったんだけど、水野課長の感想が私の中では非常に印象に残っていて、これは佐野校長にも電話で伝えました。。

水野課長は、こんなにお一人お一人が大切にされているのかと。これがとても印象に残ったということです。1,000人を超える学校で、こんなにも一人一人が大切にされている。多様な子供たちがいる中で、こんなにも一人一人が大切にされているということを力説しておられて、私も印象に残りました。そういったことが伝わる公表会だったなと思います。どうもありがとうございました。

議事

- 教育長（堀部好彦君） それでは、議事に入ります。

- 事務局長（飯田晋司君） 議案書及び追加の議案書を御覧ください。

それぞれ表紙の裏のページの目次のとおり、本日議案が全部で5件となっています。

議案第32号 教育に関する予算の意見について（令和6年度可児市一般会計補正予算（第4号））、議案第33号 可児市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱について、議案第34号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第35号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、続いて追加議案書のほうで、議案第36号 財産の取得に関する意見について、以上5件についてよろしくお願ひします。

- 教育長（堀部好彦君） 本日の議事の議案第32号 教育に関する予算の意見について、議案第34号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第35号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について及び他の不登校児童生徒の状況について、児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてについては、意思形成に関わる案件や個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

異議がないようですので、これらの件については非公開とします。

それでは、議案第33号 可児市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱についてを議題とします。

- 学校教育課長（木村正男君） では、お願いします。

議案書の2ページを御覧ください。

議案第33号 可児市学校運営協議会委員の解嘱及び委嘱について。

可児市学校運営協議会委員を次のとおり解嘱及び委嘱する。令和6年11月15日提出、
可児市教育長 堀部好彦。

記、解嘱委員、学校名、蘇南中学校、氏名、山田利男、解嘱理由、辞任の申出による。
解嘱日、令和6年11月15日。

委嘱委員、学校名、蘇南中学校、氏名、吉田雄二、住所は議案書記載のとおりです。

委嘱理由、今渡地区センター長のため。委嘱期間、令和6年11月16日から令和7年3月
31日（前任者の残任期間）。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ありますでしょうか。

よろしいですか。

○ 教育委員（梶田知靖君） 山田さんは、先ほど教育委員報告の中で話題に出ていた
学校運営協議会の方のことでしたので、質問です。

山田さんは今渡地区センター長だったわけではなくて、この方が辞任をされるから、
今渡地区センター長の吉田さんが残りをやられるということですか。

○ 学校教育課長（木村正男君） 山田さんが地区センター長だったんですが、辞められて吉田さんが新たに地区センター長に就任されました。

○ 教育委員（梶田知靖君） ありがとうございます。

○ 教育長（堀部好彦君） ほか、よろしかったでしょうか。

[挙手する者なし]

それでは、この件について承認することに御異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

異議がないようですので、この件については承認をいたします。

続いて、議案第36号 財産の取得に関する意見についてを議題とします。

○ 学校教育課長（木村正男君） 追加議案書の1ページのほうになりますが、御覧いただけますでしょうか。

議案第36号 財産の取得に関する意見について。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定により、財産の取得について市長から意見を求められたので、異議がないものとする。令和6年11月15日提出、可児市教育長 堀部好彦。

記、財産の取得について。

次のとおり物品を取得する。

1. 物品、教育用マイクロソフト365ライセンス。

2. 方法、指名競争入札。

3. 金額、3,214万9,975円。

4. 相手方、東京都港区海岸1丁目7番1号、ソフトバンク株式会社代表取締役 宮川潤一。

これにつきましては、1人1台タブレット利用に必要となるマイクロソフトのワードやエクセルなどのオフィス製品や、コラボレーションのツールであるT e a m sなどを利用するために必要なライセンスを5年分調達するためのものです。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ありますでしょうか。
- よろしいですか。

[「なし」の声あり]

では、この件について承認することに御異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

異議がないようですので、この件については承認をいたします。

各課所管事項

- 教育長（堀部好彦君） それでは、各課所管事項です。
- 事務局長（飯田晋司君） 私からは1点、水泳授業の在り方について少しお話をさせていただきます。

現在、教育総務課で学校の意見を聞きながら現状を検証し、今後どのようにしていくのがよいか検討しているところでございます。今年度中のどこかで、担当課からまた教育委員会会議の場を通じてお話をさせていただくことになるかと思いますけれども、現在の状況を私のほうからお伝えしたいと思います。

こういった件につきましては、令和元年5月の教育委員会会議で議題として上程して意見交換をしていただいております。その際の状況としては、事務局から学校プール施設の改修や建て替えの経費に加え、毎年の維持管理費等、民間委託した場合の金額を比較した資料を示して御説明をしております。その時点では、自前プールより民間委託のほうがトータルの経費が高いとの試算が出ております。

その際、委員の方々から出た主な意見としましては、小学校については、水に慣れることや命を守るために着衣水泳のことなども踏まえて水泳の授業は必要ではないかと。ただ、中学校については、水泳の授業を見学する生徒も多いということもあって、小学校ほどには必ずやらなければならないということもないのではないかといったもの。あるいは、自前プールの場合、先生方の負担の大きさや天候に大きく左右されることを踏まえて、少し経費が高くても民間委託できる分は移行することを考えはどうかといったような意見が出されております。その時点では、今後それらの意見を踏まえて検討していきますといった形で終わっておりました。

その後、コロナ禍に入りまして、令和2、3、4年度と水泳の授業ができず、その期間中に兼山小学校では施設の不具合、これは排水などの不具合があつたんですけども、それによってプール自体が使用不可となりまして、兼山小学校は市内全校が水泳授業を再開した令和5年度から民間委託による水泳授業を既に実施しておるという状況になっております。

この兼山小学校に関しましては、規模が小さいことなどもありまして、明らかに施設の不具合を直すよりも民間委託でやつたほうがコスト的にもいいといったことも状況としてはございました。

現在、教育総務課で検討を進めております水泳授業の在り方につきましては、各学校の意見やプール施設の老朽化などを含む現状とか、それから水泳授業を取り巻く実情、それから、この中には先生方の負担や、酷暑とか雷により実施できないことが増えてい

る現状なども踏まえておりまして、また自前プールや民間委託のコスト比較など、様々な要素を検証して検討する形で進めています。

今、先ほども兼山小学校の事例を申しましたけれども、建設関係の経費が非常に高騰しておりますので、現時点での試算でも委託のほうが、建て替えであったりとか、様々な経費を含めて比較しても、委託のほうが安価にできるといったような試算も出ておりますので、その辺を踏まえて検討しておりますので、またお話をさせていただくことになるかと思います。どうぞよろしくお願ひします。

私からは以上でございます。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。
- 教育総務課長（水野 修君） それでは、私のほうからは1つお願ひをしたいと思います。

この後の議案にも関わることでございますし、もう既に御案内状のほうをお出ししておりますので、改めてという形になりますが、お願ひします。

教育委員会表彰の御出席についての御依頼ということで、再度こちらのほうで確認をさせていただきたいと思いますので、お願ひいたします。

12月1日の日曜日、午前9時30分から総合会館5階大ホールで行います。御集合は、午前9時20分までに直接総合会館のほうにお越しいただきたいと思っております。駐車場は総合会館の正面の駐車場を確保させていただきますが、いっぱいであれば、市役所の正面玄関のほうにお止めいただくようにお願いします。

今回は、教育委員会表彰と併せまして、今年から始まります「笑顔の“もと”」奨励賞の表彰も行います。その関係上、若干お時間は少しかかるかもしれません。予定としては10時30分ということで御案内させていただいておると思いますが、11時ぐらいまでかかるかもしれませんので、その点、よろしくお願ひをしたいと思います。

それでは、私のほうからは以上でございます。

- 学校教育課長（木村正男君） では、よろしくお願ひします。

10月25日以降の学校に関わる動きです。

まず1つ目、学級閉鎖がありました。土田小学校と兼山小学校です。理由は、インフルエンザや発熱による欠席者が多いためです。土田小学校は、4年3組が11月8日から11日まで、3年2組は11月13日から14日、4年1組・2組が11月12日から13日、4年生に至っては、学年閉鎖にこそなりませんでしたが、日にちを変えて全学級が閉鎖になっています。兼山小学校6年生が、11月14日から15日となっています。今後も広がる可能性がありますので、感染対策を進めていくように学校には指示しているところです。

続いて学校行事です。

昨日14日、桜ヶ丘小学校と広見小学校は修学旅行から帰ってきました。残すところ、7校計画しております。来週18日から19日が南帷子小学校、21日、22日が今渡南小学校と春里小学校、旭小学校。28日、29日が東明小学校、今渡北小学校、土田小学校、以上計画しております。

続きまして、なかなかお伝えできていませんでしたが、外国籍児童・生徒の推移についてお伝えします。

令和6年度の外国籍児童・生徒数は、4月の段階では865名でした。それに比べ11月

現在の児童・生徒数は896名、31名の増加となっています。学校別でいいますと、今渡北小学校と広見小学校はそれぞれ11名の増加となっています。次いで土田小学校の5名、その次が南帷子小学校や西可児中学校の2名の増加となっています。蘇南中学校におきましては、頻繁な出入りがあるために現在は転出児童のほうが上回り、3名の減少となっています。

国籍の内訳ですが、フィリピンの子供たちが一番多く484名、続いてブラジルの子たちが356名、次いで中国の子が15名、そしてペルーの子は15名でした。よくその他で終わってしまうんですが、その他の内訳もあえて言わせていただくと、アメリカ合衆国、ベトナム、韓国、パキスタン、タイ、スリランカ、ネパール、モンゴル、バングラデシュ、メキシコ、イギリスと数は少ないですが、多岐にわたっているという現状をお分かりいただきたいと思っております。全ての小・中学校、もう今はどの学校にも外国籍児童・生徒は在籍しております。その対応について、継続して支援していきたいと思っております。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございました。
- 教育研究所主任指導主事（石黒智子君） お願いします。

資料ございますので、御覧ください。

まずお礼を言わせてください。笑顔の学校公表会への御参加と本会での感想を聞かせていただき、ありがとうございました。

発表校が今回作成した動画の活用について、両校とも入学説明会などで活用する計画を既に立てているとも聞いておりますが、改めていただいたアイデアをお伝えしていきたいと思います。また、各学校からの感想も今集まりつつありますので、次回御報告いたします。

それでは、資料について4点お伝えいたします。

1つ目は、1ページの12月の予定です。

2つ目に、2ページです。学校所員の実践紹介が掲載しておりますが、学校所員会ではICTの利活用と協働的な学習の充実によって、「笑顔の“もと”」を育む授業の創造を研究テーマとしています。現在、学校所員会のメンバーは各学校で授業実践をしておりますが、2ページに4校の例を掲載しました。協働的な学びの視点から見ると、①にあります広見小学校は、国語の主人公の心情の変化に迫るために、授業の初めは自分と同じ観点の考え方の人と交流し、次に自分と違う観点で考えた仲間と交流することで考え方を深めたり広げたりしました。

②の兼山小学校では、英語の道案内をする活動で、最初に交流した人と最後にも交流して、表現力の向上を互いに評価し合うという協働的な学びで試していました。

下半分には、ICT利活用についてです。

共有ノートという機能がタブレットにあるんですけれど、仲間の考え方を参考にして自分の考え方を深めたり、授業者が自作の教材をつくって、班の仲間と相談しながら、タブレット上で選びながら一つのものをつくったりするなど、手探りではありますが、有効活用の仕方を模索しています。継続して「笑顔の“もと”」を育む授業づくりで学びの推進をしてまいります。

3つ目です。各支援センターについて、3ページにスマイルだよりを掲載しました。

新スマイリングルームでの生活の様子とスターバックスでの職場体験についての記事です。職場体験では、通室生が考えたフラペチーノがお勧め商品として紹介され、多くの方が買い求めていました。生徒たちは、飲物を作ったり、店内の掃除をしたり、体験を通して社会とのつながりを学ぶことができたようです。

次に4つ目、4ページです。ふるさと教育です。

10月31日、蘇南中学校で開催した市長による授業を紹介しています。「可児市の未来のデザインを考えよう」をテーマにして、4人のパネリストたちがそれぞれ自身の思いを語った後、小グループで生徒全員が、3年生全員が考えを交流しました。市長の話を直接聞いて、自分たちの発想を生かしたまちづくりに興味を募らせていました。これから実施する学校も数校あり、貴重な機会をいただいております。

教育研究所からは以上でございます。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございました。
- 学校給食センター所長（水野伸治君） 私のほうからは、給食調理のプロポーザルについてです。

参加申込みにつきましては1社でございましたが、選考委員会を本日午後開催する予定でございます。そこで審査していただき、選考されると、来月指名委員会に諮りまして、委託契約ということになります。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございました。

各課からのお話につきまして、御質問、御意見等ございますでしょうか。

[挙手する者なし]

では、私から1点お願いします。

学校教育課長に提案というかお願いなんですが、先ほどあまりお知らせしていなかつたのでということで、外国籍児童・生徒の推移、ありがとうございました。参考になるかと思います。

加えて、教職員の時間外勤務の記録、どこまで数値としてここで示すことができるかということをまた検討していただきたいんですけども、学校がどう努力をして45時間に近づけようとしているのか、または45時間をクリアしているのかということは、教育委員の皆さんに理解していただいたほうがいいんじゃないかな、学校訪問等で参考になるんじゃないかなと思います。

その中で、80時間超え、100時間超えの職員います。その職員たちにどう指導しているのか、なぜそうなっているのかというようなことについても御理解いただけるとありがたいと思います。その辺り、示し方はお任せしたいと思うんだけど、ちょっと触れていただけるとありがたいと思いました。

なぜそう思ったかというと、この間の市PTA連合会の懇談会で運動会のことが話題になりました。親さんからすれば、御自身の子供の頃も思いながら、それから我が子の運動会の様子も思いながら、いい思いをさせてあげたい、そしていい思いを自分をしたからということで、殊に運動会、小学校運動会に対する保護者の期待は高いということを、改めてこの間の懇談で感じました。

一方で、必死になって学校は45時間をクリアしようとしています。これは国が言っているんです。国は将来的に20時間と言っています。運動会に特化して言うべきじゃない

かもしれません、親さんがあれだけ言われますので。運動会に特化して、運動会をもつと昔のようにやってほしいと、種目にせよ、時間にせよ。そうなったとしたらどうなるんでしょうかということを、そういった視点も教育委員として持っていていただきたいと思います。45時間がクリアできている先生はいいんだけど、そうじゃない80時間、100時間の方が、さらに運動会で仕事が回ってきたとしたらどうなるんだろうかという想像もしてもらえるのではないかなと思っています。

大変難しい問題なんだけれど、そういった教育現場の状況もここでつかんでいただけないと、働き方改革も大切にしながら、「笑顔の“もと”」を育む教育をどう進めたらいいんだろうかということを考えていけるのではないかと思いますので、そういった意味でも一度考えていただけるとありがたいと思いました。

ほか、ないでしょうか。

[挙手する者なし]

委員からの提案協議事項

- 教育長（堀部好彦君） それでは、御質問等もないようですので、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。
何かありますでしょうか。よろしいですか。

[挙手する者なし]

その他

- 教育長（堀部好彦君） それでは、次にその他に行きます。
次の予定です。
○ 教育総務課長（水野 修君） 次回会議の日程でございますが、12月12日木曜日、午前9時からということでお願いいたします。場所は、市役所4階第3会議室でございます。よろしくお願ひいたします。
この会議の後ですが、新年度予算に関する教育政策会議も開催する予定でございますので、併せて御承知おき願います。
その次の1月の日程については現在調整しておりますので、また御連絡をしたいと思います。以上です。
○ 教育長（堀部好彦君） それでは、これより会議を非公開といたします。

(以下非公開)

(以上非公開)

閉会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） では、以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。お疲れさまでした。

閉会 午前10時35分